

タイトル：2025 年度 教育セミナー（第 21 回）

日時：2025 年 9 月 18 日（木）～21 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 大会議室（303）

「現代ウズベキスタン社会における女性の規範意識：ケーススタディを通して」

松本涼（筑波大学）

中東☆イスラーム教育セミナーは私にとって極めて有意義な機会となりました。AA 研およびご参加の皆様にご感謝申し上げます。

私は学部と修士課程で大学を異にし、また修士課程の一年次にはフィールドワークを兼ねて半年ほど留学にも行っていたため、これまで他の教員や学生と関わる機会を十分に持てておりませんでした。このような状況下で本セミナーに参加したことで、所属大学の枠を超えたアカデミックな交流を体験し、多くの貴重な収穫を得ることが出来ました。

まず、学生および講師による多種多様な研究発表を拝聴したことは、大きな学びとなりました。方法論やフィールドに関することから、研究の組み立て方や向き合い方に至るまで、専門外の知識や価値観に深く触れることが出来ました。私自身も研究発表を行い、あらゆる角度からの丁寧なフィードバックを頂戴することが叶いました。また 4 日間という長めの期間設定のおかげで、発表以外でも私的な議論や意見交換を重ねることが出来ました。

中でも特筆すべきことは、本セミナーでのこうした交流が私自身の研究の方針について考え直す契機となったことです。私の研究テーマは女性の規範意識についてであり、社会学や文化人類学を横断した地域研究といったようなものですが、調査を進める中で人々の具体的な苦しみに直面し、己の無力さに歯がゆい思いをすることもありました。論文を書くという行為によって問題を直接解消することは難しいですが、しかしジェンダー研究としての明確な立場を設定し、訴えたいことの筋を通した論文を書くということが、調査という暴力に対して果たすべき責任の一つなのではないかと考えるようになりました。また修士課程修了後は一旦民間企業への就職を予定していますが、就業経験を糧にしてインタビュー手法の訓練など方法論の基礎を固め、長期的な心持ちを持って在野で研究を継続していこうという気持ちを新たにしました。博士課程への再入学も積極的に検討していく所存です。

このように、今回の教育セミナーは私の研究意識に大きな変革をもたらすものでした。皆様 4 日間本当にありがとうございました。